



東小学校だより

## 木 洩 れ 陽

令和3年10月5日 No.7

文責 校長 瀨砂一徹

10月に入りました。運動会が近づき、応援練習をする子どもたちの元気の良い声が響いてきます。一年で最も過ごしやすいと言われるこの季節を、大切に過ごしていきたいと思えます。

さて、今年の運動会も、例年とは異なるかたちで実施していく計画を立てています。学校ホームページやメールで情報をお伝えしておりますが、確認をよろしく願いいたします。コロナウィルス感染症に気を付けながらも、子どもたちの活躍する姿を多くの皆様に見て頂きたいと考えております。

### 【「手や指先の感覚」を大切にする】

一般的に、我々人類は道具を器用に使いこなすことができます。他の動物も道具を使う場面はあるものの、人類に比べればかなり限定的だと言えるでしょう。

かつて、洗濯機が使われる以前は洗濯板で洗っていました。鉛筆削り機が使われる以前はナイフで研いでいました。掃除機が広がる前は、箒で掃き掃除をしていました。水くみもかつてはポンプやつるべを使っていましたし、薪に火を点ける作業は大人でも手間と時間のかかる作業でした。こう考えると、道具の発明や生活様式の変化によって、我々が手や指先を使う機会は少しずつ減ってきているのではないのでしょうか。

この傾向は、子どもたちの生活において顕著だと思えます。私たちの生活は道具の発明や生活様式の変化によって、確かに安全で、便利で、衛生的になりました。しかし、その反面、失われる手や指先の機能があるということを忘れてはならないと思えます。持つ、握る、ひねる、打つ、つまむ、絞る、結ぶ等の動作を意図的に、数多く経験させることは、子どもたちが生きる力を身に付ける上で重要なことだと思えます。

詩の暗唱を通して その2・・・

9月は高田敏子さんの「忘れもの」という詩の暗唱に38名の皆さんが挑戦し、合格しました。10月は鈴木敏史さんの「手紙」という詩です。

子どもたちの頑張りを期待します。



